

橋下徹氏が、副総理で入閣したら非常時を乗り越えられるか。

橋下徹氏の COVID-19 での、政府・地方自治体の対応姿勢批判は、誰もが納得出来るお話で内閣に副総理格で入閣したならば、国民の信頼が地に堕ちている安倍政権も、信頼を取り戻し、非常時を乗り越える事が出来るのではないのでしょうか。

それにしても、橋下さんや維新の党に全幅の信頼は出来ません！

その理由は、現下の国際情勢への対応、特に中国共産党への警戒感欠如です。

「経済界も中国とは、上手に付き合えば良い。」「二階さんの後に続く人材が欲しい。」「与野党の親中国派は、今は物が言えない雰囲気だ。」と橋下氏が、日曜の朝 TV で発言されました。また、中国との貿易が無ければ、日本は立ち行かなくなる・・・とも。

中国に依存度を増やし過ぎて、何か問題が起きれば、会社は立ち行かなくなる様な企業は、倒産すればよいのです。

中国と取引する前から、中国との取引には「この様なリスクが有る」と、真面目な経営者なら理解できてたはずです。

外務省や経団連の中国政策は「お互いに譲るところは譲り」を、繰り返してきました。現在、中国の恫喝外交は日毎に激しくなっています。

我が領海に連日中国艦船は居座り、今では「日本に出て行け」と言い出しているのです。

ウイグル、香港、産業スパイ、不正アクセスなどの反道徳、人権侵害行為を容認していたら、世界に未来はありません。抑圧されている中国人民も不幸です。

私たちは、民主主義国家です。アメリカと軍事同盟も結んでいます。

河野防衛大臣が防衛力強化を急ぐのは当然の事です。

橋本さんは、領土問題には触れようとしない。世界情勢、国際政治は不得手ですか？日本だけに通じる「内弁慶」ですか？

COVID-19 と同様、中国の横暴も、これ以上許してはいけません。覇権主義への対応は喫緊の課題です。国民に正しく国防・平和への理解を求める事は、人気者橋下氏の責務だと思います。

私のコメントに「中小企業の親父が何を言うか」と、笑う人が多いそうです。私は「未来の子供たちに残せること」の一つとして、10代、20代の皆さん、一人一人が私の様に、自由に発言し議論を拓けて、周りを変え、社会を変えて、明るい未来を築いてほしいと願っています。「自分一人が発言しても何も変わらない！」この様な、負け犬姿勢は、大人として誠に無責任で、恥ずかしい事です。